場所・面積

愛知県稲沢市、0.83 ha



管理目的

地域の希少種が生息できる環境を作り、生物多様性保全に貢献すること。
また、従業員の精神的充足や環境意識の向上、レクリエーションの場として活用できる空間を造成すること
将来的には保護・繁殖させた希少種の他団体への供給や、近隣小学校の学習の場として活用していきたい。

サイト概要

愛知県稲沢市の平和町工場敷地内にあるビオトープは、森・草地・水辺の３つのビオトープをインセクトパスでつなぎ、より多くの生物が生息できる環境を目指している。本ビオトープは、工場の調整池を活用したものであり、造成後も調整池の機能は維持している。

造成時には表土50mmをすき取りし、メリケンカルヤカ等の外来種を一掃するとともに、すき取りした土を中央に積み上げ、雨水が溜まった時でも水につからない場所を作り、希少種の保全ができる場所を設けた。また、水生生物の生息できる環境を整備するために、水辺エリアの一部は深く掘削することで、地下水によって常に深さ50cm以上の水が溜まるように造成している。

工場敷地内のビオトープであるため一般の市民が入らないこと、更には工場に植樹した森に囲まれているため、外部からの影響が少ないことから、その特性を活かして、地域の希少種保全に向けた「ニホンタンポポ」などの種を植える活動も実施している。

土地利用の変遷

1989年に工場を設立以降、雨水の調整池として活用していた土地。2017年時点では、在来種のオギ群落が点在していたが、大部分が外来種のメリケンカルヤカで覆われていた。また、隣接する沈砂池は、ヨシ群落で覆われていたが、セイタカアワダチソウも確認された。
2018年に、限られた場所・費用での生物多様性の保全方法を検討した結果、本土地である調整池を有効活用したビオトープの造成に着手した。
当時、調整池を活用したビオトープは愛知県内で初の試みだった。

サイト周辺の環境

申請サイト周辺は工場、住宅、田畑で囲まれている。ビオトープ造成時、ビオトープの南側は田んぼが広がり、絶滅危惧IBのナゴヤダルマガエルをはじめ、トノサマガエルやドジョウ、ギンヤンマなどの在来種が生息していたが、2021年に隣接地に大型建造物(工場)が完成したため、現在は在来種の生息環境が失われている。

アピールポイント

ビオトープ造成時には、尾張西部生態系ネットワーク協議会の関係者33名と現地現物でのワークショップを開催し、整備計画や活用方法等についてアドバイスをいただいた。また、尾張自然観察会の齋竹先生のご指導のもとで、従業員が年３回（春・夏・秋）の生物調査を実施しており、調査結果を社内報等で全従業員向けに発信している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

工場の敷地内にある雨水の調整池を有効活用したビオトープである。多種多様な生物が生息できるよう、森・草地・水辺の３つのエリアをインセクトパスで繋いでおり、生物多様性の保全に取組んでいる。ビオトープ内には遊歩道も整備しており、従業員が自由に立ち入って、自然に触れることができる。

【主な植生】

森エリア　　…主にヤマザクラ、タブノキ、スダジイ
草地エリア　…主にアレチハナガサ、ヨシ
水辺周辺　　…主にオギ、ヨシ
直近（2022年10月）の草地・水辺調査では合計32種の植物が観察された

【確認された主な動植物】

以下のとおり、在来種が確認されている
- カワセミ（学名：Alcedo atthis、成体）
- モズ（学名: Lanius bucephalus、成体）
- カルガモ（学名:Anas zonorhyncha、成体）
- アキアカネ（学名:Sympetrum frequens、成体）
- ツマグロヒョウモン（学名:Argyreus hyperbius、成体）
- アオモンイトトンボ（学名: Ischnura senegalensis、成体）



写真の撮影年月：2021年8月5日
写真の説明：スウィーピング法による調査の様子（ドローン撮影）



写真の撮影年月：2022年4月28日
写真の説明：生物調査で確認されたツマグロヒョウモン

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

豊田合成 平和町工場ビオトープで、工場敷地内にあり、木々によって外部環境から隔離されている。

【対象となる動物種】

ケリ（学名：Vanellus cinereus、成体）

【動物が利用している生活史】

繁殖



写真の撮影年月：2022年4月28日
写真の説明：卵を守るケリ



写真の撮影年月：2022年5月18日
写真の説明：サイト内で発見したケリの卵

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

- 年３回の生物調査を実施し、生物種の推移を確認する。
- 2023年度、在来種（ヤマハギ、ウツギ）を植栽し、肥沃な土壌を生成。
  土壌環境を整え、ニホンタンポポ等の希少種を植栽・定着を目指す。
  在来種の植栽はビオトープの景観向上効果も期待している。
- 当サイトで、2023年8月2日に尾張西部生態系ネットワーク協議会と連携し、
  所属団体との情報交換も兼ねたワークショップを開催する。（約30名が参加予定）
  【ワークショップの内容】
  ・外来植物駆除　…メリケンカルカヤの抜取り作業
  ・水生生物調査　…水生生物の捕獲調査およびアメリカザリガニの駆除
  ・水生植物移植　…当社で育成中のデンジソウとアサザをビオトープに移植
  　水生植物は2年前に同業他社のビオトープ（名古屋市）から
  　提供いただき、個体数を増やすために水鉢にて育成中

  ⇒ 今後の外来種駆除・希少種保全の進め方について、協議会と情報交換する。
- 当サイトの生物多様性を回復させ、オオタカ等の猛禽類の観察を目指す。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

鳥類、昆虫、植物

【モニタリング場所】

平和町工場ビオトープ内

【モニタリング手法】

ラインセンサス法、スウィーピング法

【実施時期及び頻度】

毎年3回（4-5月、7-8月、10-11月）

【 実　施　体　制 】

尾張自然観察会　齋竹先生指導のもと、
従業員および関係会社による生物調査を実施